第57回全道造形教育研究大会釧路大会特集

＜目　次＞

・大会風景〈表紙〉…… 1
・大会実行委員長あいさつ…… 2
・大会を振り返って（大会研究部長）…… 3
・釧路大会に寄せて…… 4～6
・20年度大会（いしかり北広島大会）…… 7
・地区サークル情報（空知美術教育研究会） 8

北海道造形教育連盟報

No.125　2007.12.14発行

発　行　北海道造形教育連盟
委員長　今　裕子

事務局　札幌市立菊水小学校　益村　豊
〒003-0822
札幌市白石区菊水元町2条3丁目2-14
TEL872-3084・FAX872-4589

思いを石狩につなぐ

第57回全道造形教育研究大会
釧路大会
実行委員長　宝　輪　勝　己
（釧路市立芦野小学校）

冬の訪れの便りが、各地から聞かれる頃になり、7月26日に開催された第57回全道造形研究大会釧路大会を懐かしく思い起こしております。

■ 喜びが息づく時間を求めて

研究の概要のなかでも述べさせていただきましたが、自分の「思い」や「願い」が形になり、それが認められるとき、子どもたちは喜びを感じ、この経験を繰り返していくことが満足感や達成感という「精神的な豊かさ」につながっていくこと。

図工・美術の時間は、学校生活のなかで自分の「思い」や「願い」を形にする喜び、それを他者から認められるという喜びを直接体験することができる数少ない時間のひとつであること。

それ故に私たちは多くの子どもたちが「できた！」「いいね！」という声を上げたり、思いを持ったりすることができる題材や活動を考え、求め、蓄積していかなければならない。

このような考えから　大会テーマを『「できた！」「いいね！」の喜びが息づく時間を求めて』と設定させていただきました。

研究主題に「つくる喜び・感動する心をつなげていく造形教育」を設定し、つくる喜びと感動する心のつながりについても研究を進めてまいりました。

■ 授業の中で子どもたちと喜びを共に

「できた」と笑顔で喜ぶ子どもと「いいね」と共感し合う子どもたちと教師。この関わりのなかでつながる心も大切にしていきたいと考え、なるべく多くの授業実践を積み重ねてまいりました。当日の公開授業もその事を大切に臨みましたが、授業者のなかには、図工が苦手という教師もおりますし、実践の手だてでもまだ課題があるところもありましたが、思いは熱く大会に臨みました。

その中で、各教室から子どもたちの真剣な顔や喜びに溢れた顔をたくさん見つけることができ嬉しく思いました。

また、授業検討部会、課題別分科会で最後まで熱心にご討議いただき感謝申し上げます。

たくさんのご意見をいただくなかで　釧路大会の「研究のまとめ」やこれからの研究の進め方に生かしてまいりたいと思います。

大会が終わり、若い先生が「たくさん言われましたが授業をさせていただいて良かったです」と心を込めて話してくれました。

開催地の釧路にとっても意義ある大会になりました。

■ 全道の造形教育の皆さんに感謝

本大会の開催に際しまして、授業を公開いただいた市内、管内の幼稚園、小学校、中学校、そして高校の児童生徒・教職員・保護者の皆様に深く感謝いたします。

そして、授業・提言づくりから大会の会場設営から運営にまで、一人何役もご尽力いただいた造形関係の先生すべてに感謝いたします。

作品提供や有形、無形のご支援とご協力をいただいた北海道教育委員会、釧路市教育委員会、釧路市私立幼稚園連合会、釧路市小中学校校長会、北海道高等学校校長協会釧路支部、釧路市特別支援学級設置学校長協会に深く感謝申し上げます。

最後に温かく見守ってくださった全道の造形の先生方に本当に感謝、感謝の言葉で一杯です。

追　伸

会場校の釧路市立芦野小学校は、平成元年開校の新しい学校です。校舎は、オープンスペースで開かれた学級学年経営を目指しており、学年棟をつなぐ吹き抜けの多目的ホールもあります。

そのホールの中心に雄大な釧路湿原の広がりの中に太陽に向かうタンチョウ、そして、釧路の自然・産業がデザインされているステンドグラスが柔らかい光を注いでくれます。また、ホールの上に「大きな　ぼくの顔　わたしの顔」のモビールが子どもたちを見守っています。

子どもたちの豊かな感性を育むために特色ある施設設備を導入した当時の様々な人の思いがこめられた本校で、今大会が開催されたことに感慨ぶかいものがありました。

「くしろスタイル」を手に、楽しく充実した図工・美術をめざして

釧路造形教育研究会
研究部長　中島健朗
（釧路市立鳥取小学校）

1．大会コンセプトは

釧路管内では「専門外の教師が美術を担当している中高が多い」や「小学校でも図工が苦手な教師が多数いる」が原因で「図工・美術で何をどう教えていいのかわからない」という学校現場からの切実な声が多く聞こえていました。

本研究大会は、その声に応え、「図工美術を児童生徒にとっても教師にとっても 楽しく充実した時間にしたい」という思いから出発しました。

そこで、積み重ねてきた授業実践をまとめ、小１から中３までの題材を領域ごとに配当し、各時間ごとに学習目標や活動の順番、そして評価規準をまとめた「くしろスタイル」を作成し、それをもとに、幼稚園から高校まで11の公開授業を行いました。

釧路大会は「図工・美術を専門としていたり、積極的に取り組もう」としている先生方だけでなく、「毎回の図工・美術の授業に困っている」先生方にも参加していただくことで「図工の授業は、こうすればいいのか」がわかり、「くしろスタイル」を手にすることで、「自分でもやってみるかな」と前向きになれるような１日にしたいと考えたのです。

2．公開授業・提言について

研究会の後、多くの先生方から「たくさんの若い先生が、がんばって授業していてとてもいいね！」という声をいただきました。しかし小学校の授業者のほとんどが「図工は苦手で…」という先生方だったため、研究理論を構成する段階から授業者を含めた研究部全員で集まり、どんな考え方で何を求めていくのかを共通認識として持てるようにしました。そして「わからないこと」を一つ一つ解決しながら、研究理論をつくり上げ、それぞれが考えている授業像を全員が理解し一丸となって授業づくりをすることができたのです。

当日は、研究会のテーマである「できた」「いいね」の喜びが息づき、良さを伝え合う授業を公開することが出来、それが、「釧路の考え方が授業によく生かされていた」と多くの方々に感想をいただくことにつながったのだと思います。

3．分科会について

３つの分科会「みる・かんじる」「かく・つくる」「かんがえる・くふうする」は図工・美術の学習の普遍的な観点であり、学習のポイントとして欠かせないの３つの視点から設定しました。

また、より多くの参会者からのご意見や、日常の実践を聞きたいという考えから、分科会を授業検討分科会と課題別検討分科会に分けて開催しました。

授業別分科会では、校種別に分けることで、自分の教室での実践をもとに、より身近な視点で授業内容や支援の方法、評価の視点などについて活発な議論が展開されました。

授業者も参会者の皆さんからの様々な意見をいただき、授業に対する取り組みのよい点や改善点を具体的な形で認識することができました。

課題別検討分科会では小中高校、特別支援学級から日常の実践をもとにした七つの提言が発表され、それぞれの視点について活発な議論が展開されました。「くしろスタイル」にも話題が及び、様々な意見をいただきました。各分科会の中でも「研究理論と授業、提言が一本化されており、わかりやすかった」や「小・中・高の授業に対する考え方がしっかりとつながっている」という声を多数いただき、「くしろスタイル」を基本とした授業づくりが間違っていなかったことを再確認したところです。

また、今回は初めての試みとして特別支援教育の分科会を設け、日常の授業の様子をVTRで公開しました。図工・美術の学習の特性である「子ども達がものをつくる、見る、さわることのできる喜びや達成感を味わうことで、自分もできるという自信がつき、その子が持っている力を伸ばしていくことができる」は、通常の学級と特別支援学級・学校が同じ視点で研究することを可能にするという考えから実現したものです。

この考え方は、今後の造形教育研究大会でも継続してほしいと考えています。

4．大会を終えて

多くの参会者をお迎えし、釧路の夏としては最高の天候のもと、無事大会を終えることができ「ほっ」としているというのが、現在の大会スタッフの一番の思いです。

また、昨年の札幌大会からの「新しい流れ」を来年度の石狩・北広島大会へとうまくつなげることができたという手応えを感じています。

今後は、今回提案することができた「くしろスタイル」の指導内容、評価の方法などを実践を重ねる中で継続して加筆修正を行っていきたいと考えています。将来的には、各地域、学校、学級で「くしろスタイル」を下敷きにした「○○スタイル」が構築され、その地域や子ども達の特性にあった図工・美術の学習が展開していくことで、子ども達が「できた！」と喜び、「いいね！」と感動する声や息づかいが生まれる教室や美術室をもっともっと増やしていけるよう研究を進めていきたいと考えています。

釧路の熱い一日

第57回北海道造形教育連盟
全道大会IN釧路　2007.7.26

熱い１日がここからスタート！
会場となった釧路市立芦野小学校

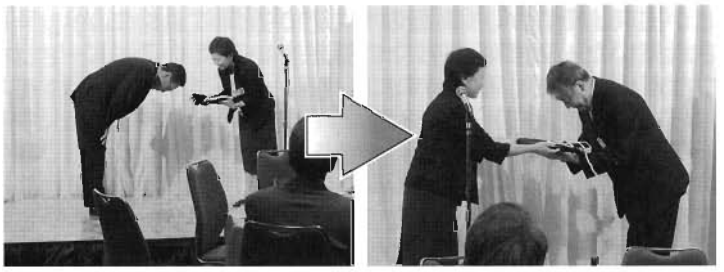
釧路大会委員長
宝輪勝己先生から
の挨拶

くしろスタイル

図工の指導をどのように進めていけばいいのだろう？という先生たちの切実な声をもとに釧路の研究がスタートしました。小中学校合わせて全112題材をねらい・指導例・評価と整理して一冊にまとめました。そのスタイルを今大会で広く全道の先生方に発信し、参加した先生方から多くの絶賛をいただいた熱い釧路大会となりました。

たくさんの実践作品が展示され、会場を華やかに飾りました

子どもたちも生き生きと創作活動を楽しみました!!



釧路大会→次年度石狩大会へ…連盟旗の引継ぎ
←釧路の先生方勢揃い!!

From釧路大会 参加者からの声

中３『日本の仏像のよさ・西洋彫刻のよさ』

『日本の仏像彫刻のよさ・西洋彫刻のよさ』の授業を見て

札幌市立柏中学校　大高　雅子

生徒一人一人の机上に準備された日本の代表的な仏像彫刻のカラー写真は一枚一枚透明なビニールの袋に入れてあり、その横には前時の学習過程が一目でわかるワークシートがありました。丁寧に準備された様子が伝わってきます。自分の学級での授業となった杉山先生の声は大変落ち着いており、発問もすっきりとムダがありません。ニケやダヴィデ像は人間の肉体美を悠々と表現しています。その美しさと正面から向き合う子ども達と、その読み取りを丁寧に拾い上げていく先生の真摯な姿が作り出す授業の空気に心地よさを感じました。彫刻の鑑賞は難しいですが、造形的に異なる作品を比較鑑賞するという授業展開の工夫がよりリアルな読み取りを導き出したのだと感じました。この大会は、くしろスタイル〉という言葉に凝縮されていたように感じます。子ども達の学びも、教師の指導力の高まりも、地道で緻密な積み重ねが大切だと感じさせてくれました。

『ものくろあーと』にチャレンジする子ども達と出会って

札幌市立平岸高台小学校　細川亜矢子

釧路大会には、お互いの作品を見あい、考えを伝えあい、よさを感じあう中で“制作の幅を広げていく子どもたちの姿”がありました。私は６年生の『ものくろあーと』（かんがえる・くふうする）の授業を見せていただきました。子どもたちはそれぞれ気持ちよさそうに筆をはしらせ、一人一人が自分なりの作品を作り上げていました。グループで机をつけて制作しているので、隣の子の表現を見て参考にしながら試している子もいました。向かいの子の作品をじっと見て『すごい！』と声をもらしていた子と、すごいといわれて少し照れていた子。『いいじゃない！』という亀岡先生の声かけに嬉しそうに顔を上げた子など、子どもたち一人一人の目の輝きが印象的でした。周りの子のよさや自分自身のよさへの気付きが、制作意欲につながっていると思いました。そして何よりも、安心して交流できる雰囲気が、子どもたちの制作を後押ししていました。【かんがえる・くふうする】の提言で紹介されていた《自分の作品を友達に説明してもらう》という鑑賞の仕方も、自分のよさにあらためて気付くきっかけとなり、私も是非試してみたいと思いました。①よさを認め合える雰囲気作り②関わりあえる環境作り③思いが広がる活動構成の大切さを、この釧路大会で学ぶことができました。いただいたくさんのヒントを、今後の自分の学級でも生かしていきたいと思います。

小６『ものくろあーと』

『特別支援部会』話し合いの様子

『ダイナミックに○○！』の授業を見て

釧路市　ふたば幼稚園　吉増亜矢子

今回、初めて公開保育を見させていただいたのですが、違う環境やたくさんの人に見られている中集中して活動している子どもたちに感心しました。先生方も落ち着いて素晴らしかったです。朝の会の時に私も腰骨保育を行っていましたが、あそこまで子どもたちを集中させ背筋を伸ばさせるには相当の時間と根気が必要なのだろうなと思いました。造形に利用する葉は全部色付けされていて綺麗でしたが、半分くらいは無着色、自然のままの葉があっても良かったのではないだろうかと思いました。葉っぱをいろいろな形にし、うさぎやかにを作っている子どもたちの発想力の楽しさをあらためて感じました。絵の具ケースも工夫されていて子どもたちも使いやすいだろうなと思いました。最後の後始末もしっかりできていました。いろいろなアイディアを頂き学ぶことの多い１日でした。

幼稚園『ダイナミックに○○!』

『特別支援教育部会』に参加して

釧路市立東雲小学校　井田　貴之

私は今年度初めて特別支援学級を担当しています。子どもたちと接しながら日々新たな驚きを感じつつも不安に思っていたのは『この子たちにとって、この授業スタイルでいいのか？』ということでした。図工は交流学級の子どもたちと同じ教材で、子どもたちも喜んで取り組んでいますが、『教材が子どもたちの実態にあっているのだろうか？』、『交流学級ではなく、特別支援学級で図工に取り組むべきなのでは？』という迷いがありました。釧路大会で篠木先生が提案してくれた授業の取組は、簡単な説明でわかりやすくとても楽しいものばかりでした。これまで『思うような教材が無い！』という考えは言い訳で『自分がアイディアをもっていなかった。』ということだと気付き、恥ずかしかったです。篠木先生の実践をもとに図工に取り組んでいきたいと思います。２学期からの図工では子どもたちの楽しそうな顔を見ることができるのではと、私も楽しみです。

『幼稚園の公開保育を見て』

釧路市　かすみ幼稚園　山下麻衣子

幼稚園の公開保育を主に見学しました。どちらの授業もそれぞれに特色があり、また私の勤務する幼稚園とは違った雰囲気の中で保育が進められていたことも新鮮に感じました。『ダイナミックに○○！』（育てた野菜の葉を使って）では、①子ども同士のおしゃべりが少なく、それぞれが自分の作業にとても集中していたこと②協力し合って大きな一つの作品となっていく保育の進め方がとても素晴らしいと思いました。『世界に一つだけのおみこしを作って遊ぼう』では、①オリジナルなおみこしを作るために、子どもそれぞれが、豊かに発想し活動していたこと②子どもと先生とが親しい関係でとても良い雰囲気で活動が進められていたことが素晴らしいと思いました。授業検討では、幼稚園関係者のみということもあり、小規模な話し合いでしたが、一人ひとりが発言できる場でしたので良い雰囲気の中で学ぶことができました。

中１『イメージの箱』

釧路大会に参加して

深川市立深川小学校　桔梗智恵美

毎年、１学期が終わるころに造形大会へ行く準備をします。今年は釧路大会！階段式の公開授業を小学校だけではなく幅広く見ることができました。その分、子どもたちの様子や先生の声が拾いきれなかったことが自分の反省点でしたが、校内をぐるぐるしながら展示も含め、子どもたちへ投げかけてみたい題材のヒントをたくさん頂きました。公開授業は子どもたちにとってハレの場面になりますが、今年は特別支援学級の図工の授業風景をVTRで見る分科会に引き込まれました。子どもの目線で子どもの様子を語る篠木先生から、題材のヒントだけではなく、図工教育が今その子にどう関わるかという真摯な姿勢を学びました。釧路の先生方、準備や当日の運営など空知大会を思い出しつつ、こうして道内の図工美術に関わる人たちが年に一度集まれるのは本当にすごいことだなぁとあらためて思いました。

『自然からのおくりもの』の授業を見て

札幌市立和光小学校　水吐千穂子

教室の前に並べられていたたくさんの流木に誘われ国井先生の授業に参加させていただきました。流木は私も使ってみたい素材の一つだったので、子ども達がどのように関わるのかを見ていました。すでに作りたいもののイメージができている子どもたちは、たくさんの材料の中から自分の構想にピッタリな材料選びを楽しみ、さらに、イメージに近づけるために流木を切ったりやすりをかけたりする作業にも真剣に取り組んでいました。今回の授業では、自分の思いを表出する喜びを十分に味わっている子ども達の姿がありました。それは、①たくさんの自然の材料②段階を踏んだ技法指導③子どもの思いをふくらませる教師の関わりという三つの要素がうまく融合した結果だと思いました。小さい頃、図工が苦手だったとお話されていた国井先生が、一生懸命に材料を集め、子ども達に寄り添った指導を工夫して『表現する楽しさを子ども達に伝えたい』という熱い思いが伝わってくる授業でした。

幼稚園
『世界にひとつだけのおみこしを作って遊ぼう』

小６『自然からのおくりもの』

『イメージの箱（表現）』の授業を見て

釧路市立春採中学校　横田久仁子

門外漢(国語)のため、あまり偉そうなことは申し上げられませんが…

今回は鳥取西中学校免田先生の授業を見させていただきました。レタリング、色使いの研究、発泡カッターなどの道具使い、異素材どうしの組み合わせ、彩色など様々な課題を含んだ総合教材として楽しく拝見しました。授業をみての感想としては①子どもたちが自分の作品としっかり向き合い、思いや願いを表現しようとしていました。一人ひとりに訊いてみると、きちんと答えをもって制作しているように感じました。②教材教具の準備のために先生が実習費などを集め、安く工面されたのだと思うのですが、ボードやアクリルガッシュなどが、ふんだんに用意されていました。生徒の制作意欲を高める材料の豊富さに先生の熱意を感じました。③制作進度に差が開いてもじっくり待っている先生の包容力に魅力を感じました。きっと、生徒たちも安心して制作できたものと思われます。大会全体の雰囲気はとても素晴らしく、オープンクラスの会場や、幼～高まで全ての子どもたちの様子が見られる時間差授業もアイディアとしてはいいなぁと思いました。

『みてみて　おはなし』の授業を見て

浦河町立浦河東部小学校　細川友貴乃

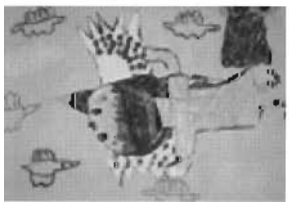
今回初めて図画工作の研究大会に参加しました。普段から子どもたち一人一人のイメージを大切にした授業展開を…と心がけていますが、なかなかイメージ通りにものを作ったり自分なりのイメージ自体を持つことができなかったりと、「自由に」ということの難しさを感じているところでもありました。今回の授業を見て①単元を通じて課題を意識させる②じっくり取り組める場の保障をする③友達との関わりあいの中からお互いの作品を認め合う中で自信につながる④作業の手順を明確にするの４点がポイントだと感じました。大会参加後、自分の中で図工に対する思いが少し前向きに変わりました。今回学んだことをいかして子どもたちが「楽しい！」と感じる図画工作の時間を展開していきたいです。

第58回 全道造形教育研究大会
いしかり北広島大会

豊かな心と確かな力を育む造形教育を！

■会　　期　2008年７月28(月)・29(火)日
■会　　場　北広島市立大曲東小学校　大地太陽幼稚園　夢プラザ
■主　　催　北海道造形教育連盟／石狩造形教育連盟
■対象校種　特別支援・幼稚園・保育園・小学校・中学校・高等学校

図工の授業ってよくわからない。
免許外で美術を担当している。
こんな実態があります。



図工美術教育の研究団体として、
そんな声に総力をあげてこたえたい。

一歩先行く授業でなく、ごく普通の授業の中で。
子どもにとって大事な時間。自分自身をつくる時間。
教科を通して豊かな心や確かな力を育むには、具体的には
どうすればよいのか。

子どもと題材との出会いで意欲を引き出し、その活動をしっかり受信していく。
このことを繰り返していくことで子どもの中に「豊かな心と確かな力」が育まれていく。
子どものために充実した環境や教育課程を準備することがその基礎となる。

28(月)

9:00～	開会式／研究説明
10:00～	公開授業
11:00～	授業についての話し合い
12:30～	昼
13:30～	提言１／研究協議
14:50～	提言２／研究協議
16:10～	交流会（茶話会）
夜	レセプション

研究のプレゼンテーション。研究の主旨をご理解いただいてから、研究会に参加していただき、授業や提言がよりわかりやすくなるようにします。

特別支援・幼稚園・小学校・中学校の授業
あわせて10、公開します。
子どもの頭や心の中で何が起こっているのか。
育みたい力や心をどう育てようとしているのか。

「提言はもう一つの公開授業。」
提言時間は30分。協議40分。
数ある提言の中からお好きなものを選んで、ご参加ください。
なお提言は映像などを使用し、子どもの姿や授業の流れが見えるように工夫します。

一日目の日程終了後、気軽な感じで参加できる交流会を用意しました。お茶でも飲みながら。人の出会いやつながりは元気や力を生み出すでしょう。

29(火)

9:00～	研修(ワークショップ)Network部会
11:00～	講演会

「技法指導のDVD視聴」「授業ビデオの公開」「実技研修コーナー」「教材紹介コーナー」「子どもの絵のギャラリトーク」…子どもの絵をどうとらえたらよいのでしょう。子どもの絵を見ながら子どもの学びについて考えます。

講師は大橋　功氏（東京未来大学・日本美術教育学会事務局）
…実践的なお話をいただきます。

くわしいことは → http://iart.main.jp/

第44回　全空知「子どもの作品を語る会赤平豊里大会」に参加して

厚別西小学校長　田口　和男

気温がぐんと冷え込み、グラウンドでは初雪がうっすらと積っています。体育館では明るく元気な子どもたちの挨拶の言葉が響く、ここ赤平市立豊里小学校。空知美術教育研究会で初めて縦割り班による全校造形活動（題材屋台）がスタートしました。「森から生まれた物語」（自然素材）「おしゃべりする人」（紙粘土）「わーい　はつゆきだ」（ビニル・各種ペン）「私を見守る目」（ウッデイ粘土）「また　会おうね」（コラージュ）「ふわふわボールをつくろうよ」（羊毛）。いろいろな素材で異学年の仲間たちが頭を寄せ、協力し合っていきいきと造形活動に親しんでいる姿でいっぱいでした。きっと、校舎はみんなの思いが込められた作品で美しく飾られることでしょう。

次は、道造形連盟としては初めて取組として空知美術教育研究会の依頼を受けて全道教育美術展の奨励賞作品100点を前にしての審査の観点・目安や全道的な傾向等を説明しました。特に「よい絵といえるものに共通するものはなんだろうか？」「われわれが選んでいくための目安はこれでいいのだろうか？」等を毎年見直しながら審査にあたっていることを話しました。

最後は、小学校低学年・高学年・中学校に分かれての子どもの作品を語る会が行われました。ピックアップされた数点の作品でなく、指導したクラス全員の作品を持ち寄り、子どものよさを発見し、交流する中から今後の指導に役立てようとする空知の先生方の意欲が伝わってきました。44年という長い歴史の積み上げと若い先生方の造形教育に向ける熱意にあふれていた会場でした。

kinpro ワークショップ

～三角山小学校での実践授業の様子～

北海道造形教育連盟と北海道立近代美術館との共同企画により札幌市内の小中学校８校との連携授業を行っています。授業を通じて制作された作品は美術館に展示されています。

活動内容については、北海道造形教育連盟のホームページでもご覧いただけます。

http://hokuzou.kir.jp/

10月17日(水)、本展出品作家で札幌市在住のイラストレーター・kinpro〈新矢千里〉さんを講師に迎え、札幌市立三角山小学校の１年生47名と一緒にワークショップ《夢のなる森》を実施しました。三角山小学校では、学校の裏山を《カゴラの森》と名付け、日頃からさまざまな学習を展開しています。この森には子どもたちが考えた架空のキャラクター《カゴラ》が住んでいるそうです。これを活用しない手はないと、早速《カゴラの森》を子どもたちに案内してもらうことから活動が始まりました。森には《ゆめのみ》を付けた木がたくさん生えています。森實祐里先生のリードで《ゆめのみ》ってどんな味？どんな姿だろう？子どもたちの想像はどんどん広がります。そしていよいよ作品制作へ・・・。丸く切り抜いた画用紙にクレヨンで《ゆめのみ》を描いていきます。たくさんできた《ゆめのみ》は、予め作っておいた木々に吊り下げました。こうして、願いをかなえてくれる実・自分が優しくなれる実などなど、子どもたち一人ひとりの想いがびっしり集まったカラフルな《夢のなる森》が出来上がりました。

あとがき

連盟報125号を皆様のお手元にお届けすることができました。今号では、釧路大会の様子を中心に紙面を構成し、ホームページ関連の情報や地区サークルでの活動の様子についてもお知らせしました。会員のニーズに応えるような連盟報作りに向けて、ささやかな歩みではありますが努力してまいりました。今後ともよりよい広報のあり方を模索しつつ取り組んでいきますので、どうぞ、ご意見やご要望をお聞かせください。

<北海道造形教育連盟　広報部>　　松　本　和　彦　・　伊　藤　聡　美